

CT 検査における造影剤投与に関する説明書

今回の CT 検査において、造影剤という検査薬を使用する予定です。この検査薬を使用する予定の方には、「造影剤の投与に関する同意」を頂いております。以下の説明をお読みになった後に、ご不明な点を主治医に質問し、納得されましたら同意書に署名をしてください。

★ 同意は強制するものではありません。造影剤投与に同意されなくても、病院側から不当な扱いを受けたり、何らかの不利益をこうむることはありません。ただし、可能性として、造影をしないことで造影をすれば判る病変が判らないという可能性がありますことをご承知おきください。

【 造影剤とは？ 】

水溶性ヨード造影剤という薬剤を使用します。通常、静脈より投与し、注射後約 6 時間で 90%以上が腎臓から尿として排泄されます。

【 なぜ造影剤を使用するのか？ 】

造影剤を使用すると「臓器と血管」や「病変と非病変部」のコントラストが増強します（フィルム上での色合いの差がわかりやすくなります）。これにより、造影剤を使用しない場合に比べ、個々の臓器や病気の状態をより正確に知ることができます。病気の種類によっては、造影剤を使用しないとその病変そのものがわからないこともあります。

【 造影剤は誰でも使用できるのか？ 】

- * ヨード或いはヨード造影剤に過敏症の既往のある方
- * 重篤な甲状腺疾患のある方（甲状腺機能亢進症）
には使用できません。又、以下の疾患の方も原則禁忌です。（使用できません）
- * 一般状態の極度に悪い方 * 気管支喘息 * 重篤な心障害
- * 重篤な肝障害 * 重篤な腎障害 * マクログロブリン血症
- * 多発性骨髄腫 * テタニー * 褐色細胞腫

上記の他に、「以前造影剤で具合が悪くなったことがある方」、「アレルギー疾患を患っている方」は、副作用の発現率が 3～10 倍と高いことが判っています。（必ず起こるわけではありません）

ビグアナイド系糖尿病薬（詳細は別紙）を内服中で、腎機能低下がある方は、検査の48時間前から内服を中止しなければなりません。検査の48時間後に腎機能の悪化がなければ内服を再開できます。

【 造影剤の危険性は？（副作用 その他） 】

当院での造影剤の年間使用数は、平均 約 1000 本です。（1 日平均 5 人弱です）

造影剤の副作用は注入後すぐに（ほとんど 5 分以内）に症状が現れる即時型の副作用と、注入後、数時間～10 日後くらいに現れる遅発性の副作用があります。

《 即時型副作用 》

- 1) 軽い副作用：吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹 などです。一般には治療を要しません。約 3%の確率（100 人に 3 人程度）で起こります。

2) 重い副作用:呼吸困難、意識障害、血圧低下 などです。一般に治療を要し、後遺症が残る可能性もあります。約 0.04%の確率(2500人に1人程度)で起こります。

又、非常にまれ(10万人に1人程度)ですが、死亡することもあります。

《 遅発性副作用 》

検査後、数時間～10日程の間に、からだがだるくなったり、頭痛、蕁麻疹 などが出る
ことがあります。(一般には治療を要しません)

《 血管外漏出 》

検査時は勢い良く造影剤を注入するために、血管外に薬剤が漏れる場合があります。
この場合、注入部位が腫れて、痛みを伴う場合があります。一般には時間がたてば吸収
されますが、漏れた量が非常に多い場合は、別の処置が必要になる場合もあります(非常
にまれです)。

【 よくある質問 】

〈 検査前に食事の制限はあるのでしょうか? 〉

* 基本的に当院では、造影検査において食事制限はしていません。ただし、医師の指示が
あった場合は指示に従ってください。(造影剤の副作用で嘔吐した時に、嘔吐したものが気管
に入る事を防止するため、以前は食事制限をしていましたが、副作用の頻度が低い事、空腹が
不快であるという意見が多い事より、出来る限り食事制限をしないことになりました。)

* 水やお茶などの水分は脱水にならないために飲んでください。

〈 どういう時に食事の制限はあるのか? 〉

* 肝臓、胆嚢、胆管などの検査の場合は、食事を摂るとわかりにくくなる場合があるので、
食事制限をしていただきます。

〈 常用薬は飲んでよいのでしょうか? 〉

* ビグアナイド系糖尿病治療薬を内服中の方で、腎機能が低下している方は、中止して
いただくことがありますが、それ以外の常用薬は普段通りに内服してください。

〈 注射を受けた後、食事や入浴などに制限はあるのでしょうか? 〉

* 特に制限はありません。普段通りの生活をしていただいてもかまいません。

* 尿への造影剤の排泄を促進するため、水分を多めに飲んでください。

〈 副作用が出てしまった場合は? 〉

* 万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。注射中は、看護師、
放射線技師が常に観察しています。なにか異常がみられた場合には検査を中止し、
薬剤の投与など最善の対処を行います。もし、何か異常を感じましたら、ためらわず
すぐにお話してください。

同意をされている場合であっても、検査を担当する放射線科医師の判断で造影剤を使わない
場合もありますのでご了承ください。

造影剤使用前



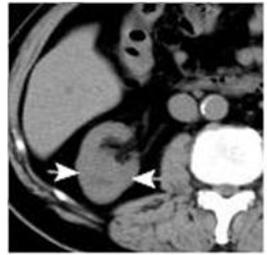
造影剤使用



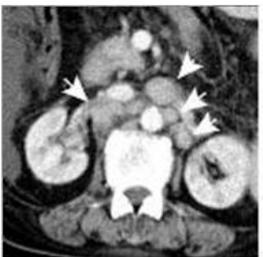
造影剤を使用すると、血液が白くなるので、血管（大動脈）内に血栓（血の塊）があるのが明瞭になる（矢印部）。又、心臓の筋肉（心筋）と内腔（血液の流れる場所）もはっきりする。



造影前はぼんやりと黒っぽい部分（矢印部）が、造影すると白く明瞭に判別できる。（肝臓の腫瘍）



造影前は境界がはっきりしないが、造影するとはっきりと異常があるのがわかる。（腎臓の腫瘍）



造影前はコロコロと丸いものが認められるが、造影すると、真っ白になる血管と、少し白くなるリンパ節（矢印部）がはっきり判別できる。



造影前は淡い不明瞭な灰色に見える部分が、造影するとはっきりと白くなり、境界も追いやすくなる。

造影剤を使用する利点の例です。

下の写真の“糖尿病薬”を飲まれている方は 造影CT検査や尿路造影剤検査を受ける前に 放射線科スタッフにお知らせください

<p>メトグルコ錠 250mg 500mg</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT 三和</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT トーワ</p>
<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT 日医工</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT ニプロ</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT ファイザー</p>
<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT DSEP</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT JG</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT TCK</p>
<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT 500mgMT TE</p>	<p>グリコラン錠 250mg</p>	<p>ネルビス錠 250mg</p>
<p>メデット錠 250mg</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mg JG</p>	<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mg トーワ</p>
<p>メトホルミン塩酸塩錠 250mg SN</p>	<p>メタクト配合錠 LD HD</p>	<p>エクメット配合錠 LD HD</p>
<p>イニシク配合錠</p>	<p>ジベトス錠 50mg</p>	<p>ジベトスS陽溶錠</p>